

カ. リーダーシップとフォロアシップについて

② 実 技

ア. 野外活動

イ. 歌とゲーム レクリエーション

③ 研修にあたっては班編成を行ない、役割分担をし、グループワークを体験しながら、学習を身につけるようにする。

(6) 効 果

団体活動をととしての指導はグループ内での責務の遂行、対人関係等を体験するとともに、職業人、社会人としての自覚をたかめることができ、今後の職業生活について明るい希望と自信を与え、予期以上の成果を得た。

## 6 青年団体指導者研修会

(1) 趣 旨

青年団体の幹部指導者、青年グループ指導者および青年教育を担当している者に、その任務を遂行するための知識技能を修得せしめ、その資質の向上をはかり、もって県下青年団体の健全育成に資する。

(2) 期 日

42. 8. 24～8. 28

(3) 会 場

耶麻郡猪苗代町 国立磐梯青年の家

(4) 講 師

群馬大学教授	永杉 喜輔
県立会津高等学校長	田中 平作
石川郡古殿町公民館長	渡辺 幹男
岩代町教育委員会次長	武藤 正四
船引町教育委員会社会教育主事	佐藤 春雄
国立磐梯青年の家職員 県社会教育課員	

(5) 参 加 者

市町村教育委員会より推せんされた青年団体幹部、青年グループリーダーおよび市町村教育委員会青年教育担当者

(6) 内 容

- ① 団体活動の意義と組織運営の原則について
- ② 団体の幹部指導者の任務と役割について
- ③ 団体活動の条件整備
- ④ 団体活動の評価と記録について
- ⑤ 団体における学習活動
- ⑥ 青年団の歴史と今日的課題

(7) 効 果

参加者は団体運営の基本事項および指導の方法、技術について体得し、団体活動に対する、自信と意欲をたかめたので、よき指導者として今後の活動が期待される。

## 7 地域振興青年指導者養成講習会

(1) 趣 旨

現に地域で活動している青年ならびに高等学校卒業後在郷する青年に対し郷土振興のため、各種活動を進めるうえに必要な知識、技能、基本的な態度を修得せしめ、もって地域振興のための学習活動ならびに奉仕活動等の充実振興に資する。

(2) 期 日・会 場

8. 9～8. 12 耶麻郡猪苗代町国立磐梯青年の家

(3) 講 師

福島大学教育学部教授	田口 孝之
国立磐梯青年の家所長	長田 足穂
県立会津工業高等学校長	佐藤新九郎
県立会津高等学校長	田中 平作
福島県青少年対策室長	丹野 清栄
国立磐梯青年の家職員、県社会教育課員	

(4) 研修内容と方法

① 講 義

- ア. 青年と社会
- イ. 団体活動とグループワーク
- ウ. 産業の近代
- エ. 青年と人生、青年と学習
- オ. リーダーシップ

② 実 技

- ア. レクリエーション フォークダンス
- イ. 野 外 活 動

③ 研修に当っては合宿のうえ、班編成を行ない、役割分担をし、グループワークを体験しながら学習を身につけるようにする。

(5) 参 加 者

- ① 高等学校3・4年生で卒業後地域にのこる青年
- ② 年少、年長青年学級のリーダー

(6) 効 果

高等学校、青年学級、卒修了後地域にのこり、青年活動の中核となって活動できる素地をつくるとともに、青年としての自覚を深め、地域産業振興に活動できる今後の学習についての方向をしめした。

## 8 県青年学級生大会

(1) 趣 旨

県下市町村青年学級生代表が一堂に会し、共同生活を通じて研修、学習発表、交歓および当面する諸問題について研究協議を行ない、本県青年学級の振興に資する。

(2) 期 日

昭和42年9月26日～28日

(3) 会 場

国立磐梯青年の家

(4) 講 師

国立磐梯青年の家事業課長 松沢 美作

(5) 助 言 者

国立磐梯青年の家職員、県青年学級研究協議会委員、県教育庁社会教育課員、伊達、北会津、田村、いわき教育事務所担当者

(6) 参 加 者

一市町村6名(男女各3名ずつ)、勤労青年学校生は4名以内、引卒指導者、青年学級主事等 270名

(7) 内 容

① 講 義

「青年とマスコミ」

② 学習テーマ

「学習活動をさかんにするには、どのようにしたらよい